令和８年度 全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策　　【松江市立 八雲中学校 】

(1)学力調査結果から見られた傾向

教科		分析(成果○，課題●)	改善策(・)
国語	成果	○情報の整理・活用や、基礎的な文法事項の理解において、全国の正答率を上回る確かな学力が定着している。	・説明的な文章の指導において、段落ごとの要約にとどまらず、接続詞を手がかりとして「主張と根拠」「中心と付加」の関係を図式化(マッピング等)する活動を単元内に位置付ける。
	課題	●「読むこと」の領域全般、文脈に即した語彙・漢字の活用、および条件に応じた記述力において、早急な改善を要する課題が見られる。	
数学	成果	○図形と関数の領域については、県の平均正答率より高く、全国と比べて同レベルである。	・到達度テストの振り返りや入試に向けての対策で課題となっている分野を克服していく。 ・家庭学習で自分の苦手を見つけ、自分から対策していくように自学ノートを工夫させる。
	課題	●図形とデータの活用の領域は、全国と県どちらの平均正答率と比べても低く、学力が定着していない。特に確率を求めること、数学的に説明することに課題が見られる。	
英語(成果または課題で話すことについて触れること)	成果	○必要な情報を抜き出して英語で表現する基礎的な記述力・発信力が全国の正答率を上回っている。	・単に事実や語句を並べるだけでなく、「自分の考え＋その理由」を型に沿って構成、発信するスモールステップの書く活動を定期的に取り入れる。 ・文章全体の流れや概要や要旨を把握できる読み取り方の練習をする。
	課題	●まとまった文章を読み、考え・理由を書く力に課題がある。 ●概要・要旨の把握がリーディング、リスニングともに課題である。	

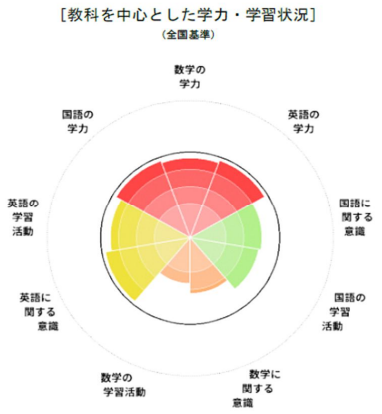
(2)質問紙調査から見られた傾向

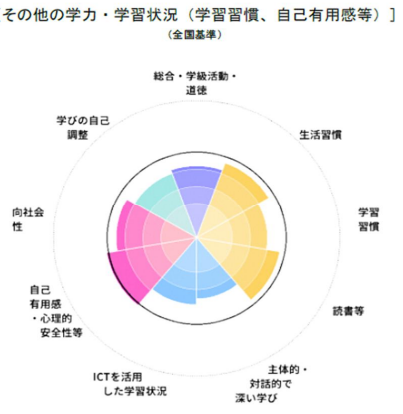
		分析(成果○:強み/伸ばしたい点，課題●:弱み)	改善策(・)
質問紙	成果	○地域や社会をよくするために何かしてみたいと考える生徒の割合が高く、ボランティアなどで積極的に地域と関わり、地域に愛着をもつ生徒が多いと推察される。	・家庭学習の時間や質を高めるために、全校一体となった取組を進める。 ・メディアにふれる時間を減らすために、家庭と連携したメディア対策ウィークの実施などを行う。
	課題	●家庭の学習時間、読書時間がともに短く、逆にSNSや動画視聴が1時間以内の生徒の割合も少ないことから、メディアにふれる時間が多い傾向が見られる。	

(3)その他、今後校内研究等学校全体で特に力を入れて取り組むこと

学校全体	自ら課題を見つけて主体的に取り組む自己調整型の学習習慣の確立に向けて、学校だけでなく家庭とも連携した取組を進めていく。 具体的には、保護者面談時に「家庭学習の手引」を配布することや、終礼時に自学振り返り時間を導入することなど。 校内研究として、主体的に学習できる生徒を育成するための学習評価の改善を学校全体で進めていく。

(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)





【受検者数】

47 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

(5)質問紙調査の結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)

